平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 065	**提案機関名**	かながわ西湘いちじく運営委員会

要望問題名　いちじく畑におけるいや地現象について

要望問題の内容　【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

いちじく畑でいや地と思われる症状が見られる。新しい畑を用意するのも難しいため対策の検討をお願いしたい。

解決希望年限	(①1年以内)　②2～3年以内　③4～5年以内　④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	(①農業技術センター)　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター

備　考

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	果樹花き研究部

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

いちじくのいや地対策については、主産地において①抜根時になるべく根を残さないように除去する。②改植時に植え穴程度の土は入れ替える。または、天地返しをする（ただし、天地返しはあまり深く施すと樹勢が強くなりすぎる場合がある）。③水田転換園の場合は、一時的に水田に戻す、等の手法が取られております。

大阪府では、樹勢回復を図るものとして、土壌の物理性改善のための剪定枝堆肥のマルチを実施しています。この時、マルチ部分には根が侵入してくるので、乾燥しないように心がける必要があります。また、センチュウ対策として薬剤の散布も一定の効果があるようです。

福岡県では、いちじくの生産安定を図るため株枯れ病抵抗性と連作ほ場での樹勢低下が少ない台木「キバル」が育成されており、今後、福岡県外へも販売が可能になるものと考えられます。

解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内

備　考